健康リスク評価と疫学
-疫学調査の実際とその社会応用-

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学
武林　亨

1. 電磁波の種類と生活での利用

2. 電磁波のリスク管理の実際
   (ア) 許容曝露基準（ICNIRP）と電波防護指針（総務省）
      - 比吸収率（SAR）と許容基準の設定根拠
      - 指針値（一般公衆）　全身平均 SAR　0.08W/kg　局所 SAR　2W/kg
   (イ) 社会におけるリスク管理の実例

3. 電磁波の健康リスク評価の今日的課題
   (ア) WHO「EMF プロジェクト」
   (イ) 携帯電話（高周波帯）
      - 疫学研究のこれまで
      - INTERPHONE 研究

4. 発がん性の評価
   (ア) 国際がん研究機関（IARC）の分類
      - グループ１　人に対して発がん性がある
      - グループ２　人に対しておそらく発がん性がある
         グループ２A　　証拠が比較的十分（probable）
         グループ２B　　証拠が比較的十分ではない（possible）
      - グループ３　人に対する発がん性に関して判断が下せない
      - グループ４　人に対する発がん性がないグループ１

5. 健康リスク評価とリスクコミュニケーション
   (ア) 基地局を巡って
   (イ) 携帯電話を巡って